

1 子どもの運動についての質問紙から分かったこと

(1) 調査の概要

本県児童、生徒の運動についての意識や行動の把握・分析を行うことを目的に、質問紙による調査を行いました。質問について、昨年度と同様の12項目（表1参照）4件法で行いました。

調査対象は、平成26年度熊本県体力向上モデル校に指定されている小学校、中学校に在籍する児童、生徒としました。

調査は対象者を変え2回行うことにして、1回目（モデル校から抽出した小学校5校）を6月に、2回目（モデル校に指定されている小学校9校と中学校1校、うち小学校8校と中学校1校は昨年度からの2年間モデル校）を12月に実施しました。1回目の調査は、本県児童の運動についての意識や行動の実態を明らかにすることを目的とし、2回目の調査は、平成25年度の調査結果（平成25年7月調査）との比較によって、体力向上モデル校の取組みを評価、分析することを目的として実施しました。

表1 質問紙調査の項目内容

項目	内容
1	わたしは、体育（運動）が好きです。
2	わたしは、体育（運動）が得意です。
3	わたしは、体育で体を動かすと（運動すると）、とても気持ちがいいです。
4	わたしは、体育では、せいっぱい体を動かすこと（運動すること）ができます。
5	わたしは、体育では、自分から進んで運動します。
6	わたしは、体育が始まる前は、いつもはりきっています。
7	わたしは、体育で、いろんなことが上手にできるようになりたいと思います。
8	わたしは、体育では、どうしたら上手にできるようになるか、考えながら運動しています。
9	わたしは、もっと運動して、体をじょうぶにしたいと思います。
10	わたしは、体育で学習した運動を、休み時間や放課後に練習することがあります。
11	わたしは、体育の時間のほかにも、よく体を動かします（運動します）。
12	わたしは、ふだんの生活で、家の中でゲームなどをより、外で体を動かして遊ぶことが好きです。

(2) 調査結果と考察

①本県児童の運動についての意識や行動

表2 1回目の調査結果

	低学年 n=255	中学年 n=389	高学年 n=415
1 好き	3.53	3.62	3.47
2 得意	3.24	3.22	2.84
3 爽快感	3.43	3.54	3.29
4 運動量	3.51	3.55	3.22
5 自主性	3.28	3.13	2.92
6 意欲	3.42	3.45	3.11
7 向上心	3.67	3.81	3.67
8 思考	3.29	3.33	3.11
9 健康志向	3.64	3.73	3.54
10 生活化	3.00	2.97	2.67
11 運動習慣	3.39	3.44	3.34
12 日常行動	3.25	3.40	2.99

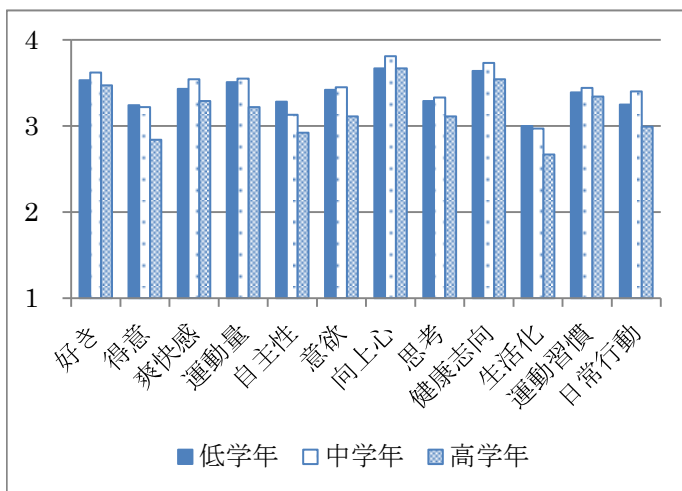


図1 1回目の調査結果（質問項目別得点）
低学年、中学年、高学年の比較

1回目の調査結果（表2、図1参照）から、本県児童の運動についての意識や行動についての傾向が見られました。

○すべての学年において、児童は「体育（運動）が好き」で「上手にできるようになりたい」という向上心を持ち、「体をじょうぶにしたい」という健康志向が高いという傾向にあります。

○高学年児童の運動に関する意識や行動は、低学年児童、中学年児童に比べて、低い傾向があります。特に、「体育（運動）が得意」という項目の低さが顕著です。昨年度も同様の結果を示しており、本県児童の運動についての意識や行動の大きな課題と考えられます。

②体力・運動能力と運動についての意識や行動との関連

運動についての意識や行動が、実際の体力・運動能力とどのように関連しているのか、体力向上モデル校から1校を抽出して、その結果（質問紙調査結果と新体力テスト総合判定結果）を基に分析しました。

調査人数 低学年 93人、中学年80人、高学年81人
 Iグループの児童 新体力テスト総合判定結果がA又はBの児童
 IIグループの児童 新体力テスト総合判定結果がAとB以外の児童

表3 新体力総合判定結果による第1回目の調査結果（質問項目別得点）

	I グループ			II グループ		
	低学年	中学年	高学年	低学年	中学年	高学年
1 好き	3.27	3.74	3.70	3.23	3.44	3.05
2 得意	2.95	3.31	3.02	2.90	2.82	2.43
3 爽快感	2.91	3.51	3.48	2.97	3.33	2.89
4 運動量	3.55	3.43	3.41	3.15	3.42	2.70
5 自主性	3.18	3.26	3.05	2.97	2.89	2.33
6 意欲	3.27	3.49	3.18	2.97	3.20	2.41
7 向上心	3.41	3.83	3.68	3.49	3.67	3.49
8 思考	3.14	3.29	3.05	2.93	3.09	2.62
9 健康志向	3.77	3.74	3.61	3.74	3.58	3.14
10 生活化	2.50	2.86	2.57	2.86	2.24	1.95
11 運動習慣	3.23	3.63	3.50	3.63	3.02	2.89
12 日常行動	2.82	3.26	3.45	3.26	3.22	2.49

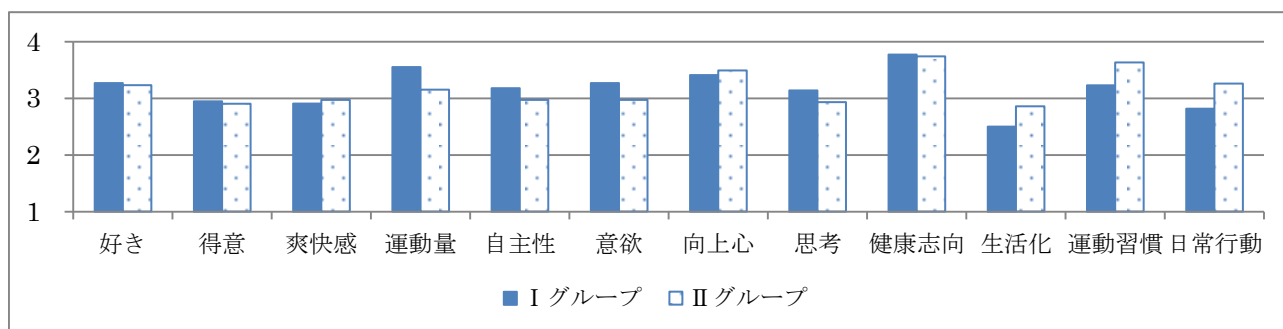


図2 小学校低学年児童の新体力テスト総合判定結果の違いによる第1回目の調査結果（質問項目別得点）の比較

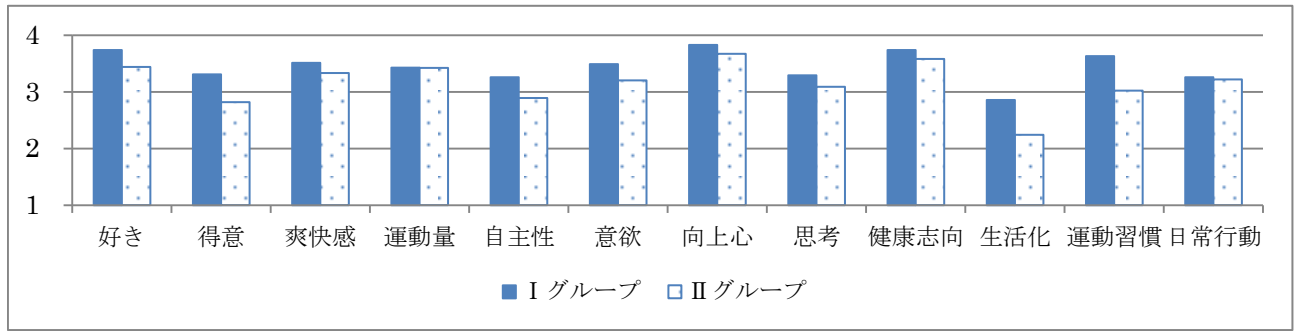


図3 小学校中学年児童の新体力テスト総合判定結果の違いによる第1回目の調査結果（質問項目別得点）の比較

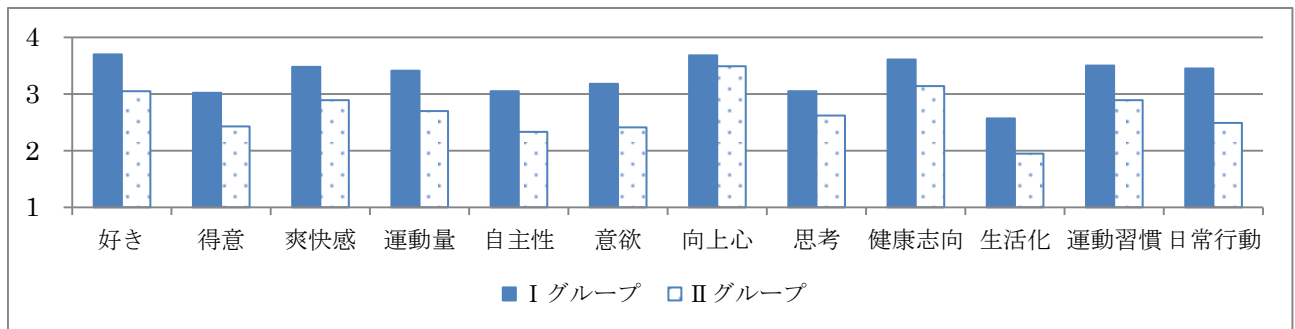


図4 小学校高学年児童の新体力テスト総合判定結果の違いによる第1回目の調査結果（質問項目別得点）の比較

1回目の調査結果を新体力テスト総合判定結果の2階層分類で比較した結果（表3、図2～4参照）、体力・運動能力と運動についての意識や行動について、次の関連が見られました。

○低学年児童では大きな差は見られませんが、中学年児童、高学年児童において、新学力テスト総合判定結果の高いグループは、運動に関する意識や行動が高くなっています。また、学年が上がるにつれ、両グループの差は大きくなる傾向があります。

○すべての学年において、児童は「体育（運動）が好き」で「上手にできるようになりたい」という向上心を持ち、「体をじょうぶにしたい」という健康志向が高い傾向があります。しかし、新体力テスト総合判定結果の低いグループは高いグループに比べ、学年が上がるにつれ、これらの項目の得点が低下する傾向があります。

○すべての学年において、体育学習が運動の生活化につながっていない児童が多く見られます。特に、新体力テスト総合判定結果の低いグループの中学年児童、高学年児童は、その割合が高い傾向にあります。

③体力向上モデル校の取組みの評価・分析

表4 平成26年度（2回目）と平成25年度の調査結果

	平成26年度（2回目）				平成25年度			
	低学年 n=551	中学年 n=643	高学年 n=664	中学校 n=219	低学年 n=360	中学年 n=574	高学年 n=687	中学校 n=348
1 好き	3.60	3.62	3.47	3.18	3.63	3.60	3.32	3.23
2 得意	3.30	3.19	2.89	2.61	3.35	3.16	2.79	2.61
3 爽快感	3.53	3.55	3.34	3.06	3.54	3.38	3.18	3.10
4 運動量	3.60	3.56	3.34	3.21	3.58	3.44	3.19	3.15
5 自主性	3.35	3.25	3.05	3.05	3.41	3.17	2.89	2.89
6 意欲	3.52	3.40	3.10	2.89	3.51	3.33	2.93	2.84
7 向上心	3.79	3.78	3.67	3.46	3.77	3.76	3.61	3.54
8 思考	3.43	3.30	3.14	3.08	3.35	3.19	3.01	3.07
9 健康志向	3.82	3.74	3.59	3.41	3.70	3.72	3.45	3.47
10 生活化	3.20	3.00	2.73	2.55	3.02	2.71	2.46	2.53
11 運動習慣	3.48	3.52	3.32	3.07	3.39	3.33	3.20	3.17
12 日常行動	3.39	3.19	3.12	2.76	3.17	3.16	2.94	2.84

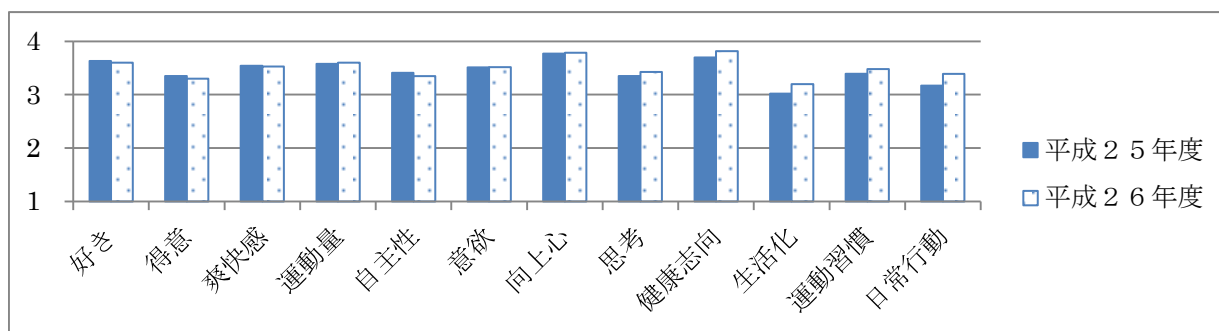


図5 小学校低学年児童の平成26年度と平成25年度の調査結果（質問項目別得点）の比較

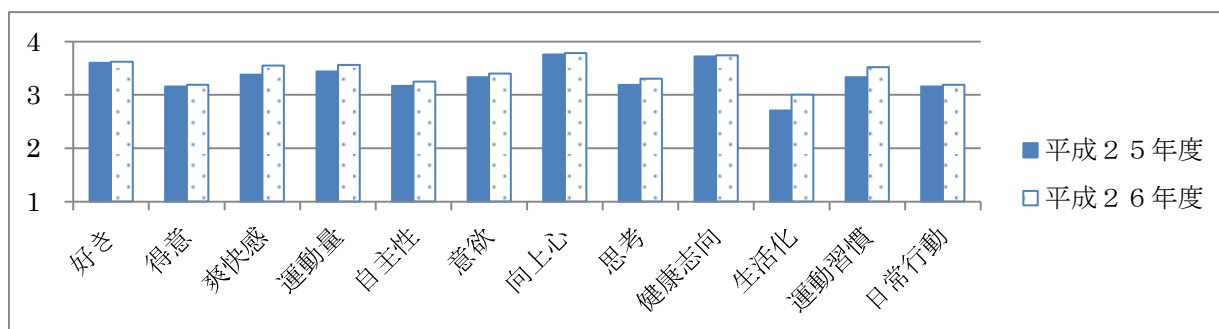


図6 小学校中学年児童の平成26年度と平成25年度の調査結果（質問項目別得点）の比較

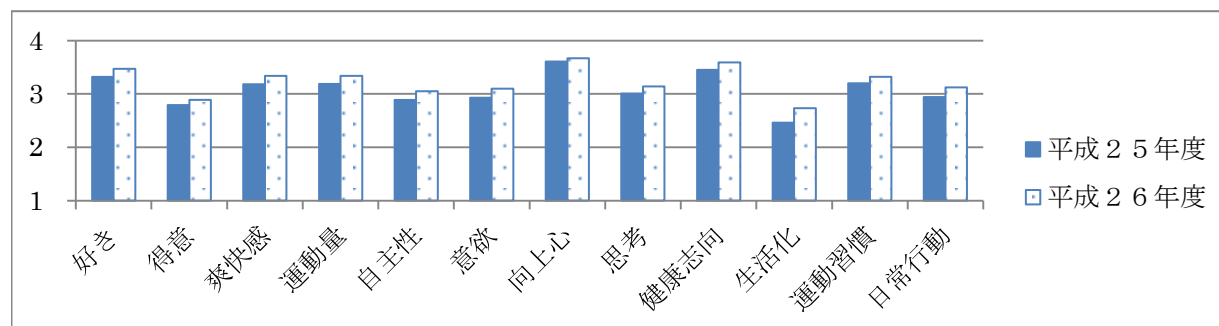


図7 小学校高学年児童の平成26年度と平成25年度の調査結果（質問項目別得点）の比較

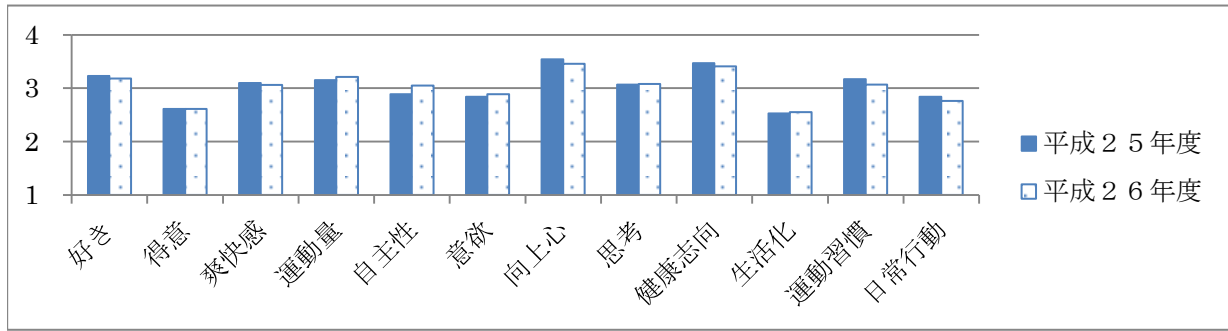


図8 中学校生徒の平成26年度と平成25年度の調査結果（質問項目別得点）の比較

体力向上に向けた取組みの内容や方法は、モデル校によって様々ですので一概に比較はできませんが、平成26年度（2回目）と平成25年度の調査結果の比較（表4、図5～8参照）から、体力向上モデル校の取組みについて評価・分析を行った結果、モデル校全般に次のことがいえます。

- 小学校の中学年児童、高学年児童の意識や行動は、すべての項目において前年度より高い結果となっており、体力向上モデル校2年間の取組みの成果と考えることができます。
- 小学校低学年児童と中学校生徒の場合、質問項目別得点の結果からは体力向上の取組みの成果が見られませんでした。それは、小学校、中学校ともに入学時点での状況に違いがあること、加えて調査時期が中学校3年生には受験シーズン直前であったことが考えられます。次年度以降、体力向上の取組みの成果が見られるような調査方法や調査時期を考えていく必要があります。

(3) まとめ

以上の結果から、今後、学校において、体力の向上に取り組む上で、以下の点に留意する必要があると考えられます。

①「体育（運動）が好き」という子どもたちを育てましょう。

体力の向上を直接の目的にするのではなく、運動やスポーツの特性（楽しさ）に触れさせることを授業で目指しましょう。運動やスポーツの特性に触れた子どもたちは、「体育（運動）が好き」になり、体育の授業や日常生活の中で、積極的に運動やスポーツを行う意識や行動につながって、体力が向上していくでしょう。

②「体育（運動）が得意」になる授業を行いましょう。

運動やスポーツの特性（楽しさ）に触れさせるために、技能を高めていくことを授業で目指しましょう。「できた」という体験が、子どもたちの体力の向上につながっていくでしょう。

③「生活化」「運動習慣」につながる授業を行いましょう。

子どもたちが「またやりたい」と思うような魅力ある学習内容（運動やスポーツの教材化）を準備しましょう。運動やスポーツの生活化、習慣化を目指す体育の授業が、子どもたちの体力の向上につながっていくでしょう。

本県の子どもたちは、「体育（運動）が好き」で「上手にできるようになりたい」という向上心を持ち、「体をじょうぶにしたい」という健康志向が高い傾向にあります。その子どもたちの意識や行動を今以上に高めていくことが、体育の授業、学校の体育的行事で大切なことであり、子どもたちの体力向上に取り組む際の大切な視点になります。